

地理的分野 学習指導案（公開授業Ⅱ）

指導者 松江市立鹿島中学校 教諭 福原 直子

1. 単元名 人口問題から考える関東地方 ～持続可能な日本をめざして～

2. 単元目標

東京大都市圏の一極集中度の高さとそれに伴う諸問題を考え、東京大都市圏を中心とする関東地方の特色をとらえる。

3. 単元構想

（1）教材について

我が国は、世界の国や地域の中でも人口の多い国である。世界の人口分布図から見た場合は、人口が1億を超える数少ない国であり、日本全体が人口集中地域であるように見える。しかし、視点を国内に移すと、不均衡な人口分布が見られ、東京大都市圏を中心に、その他の都市圏への人口集中が目立ち、中山間地域や離島の人口減が顕著である。一方、東京大都市圏だけを見ても、人口の不均衡さは見られ、人口集中地域と空洞化が進んでいる地域が混在している。人口集中地域の一般的な共通性は、平野部であること（自然環境）、産業基盤が整っていること（産業）、他地域や他国とのつながりである交通網が発達していること（交通）である。これらの視点は、日本の諸地域の学習においてすでに学習しており、その学習で得られた見方・考え方を使得って関東地方をとらえた場合、東京への人口集中は、納得しやすい。関東地方を人口という視点でとらえることは、他の視点と関連付けて、より多面的・多角的にとらえ直すことができると考える。すなわち、東京大都市圏を人口という視点で見ると、日本全体を人口という視点で見た場合の縮図と言える。したがって、東京大都市圏を人口という視点でとらえることは有意義である。

また、我が国の人口における最大の課題は、急速な少子高齢化である。東京大都市圏においても例外ではなく、人口が集中しているからこそ、より深刻な問題として受け止める必要がある。

関東地方は、東京大都市圏（1都3県）と北関東3県および東京都に属している島部から成り、人口という視点で見れば、不均衡な分布とその原因である人口の社会増減が顕著な地域である。その背景を自然・産業・交通の視点からとらえ直すことができる。つまり、東京大都市圏の学習は、きわめて汎用性が高いと考えて教材化を図った。

第2学年の地理学習の最終単元として「身近な地域の学習」を行うが、島根県の課題の視点の一つに人口問題があり、関東地方を学んだ見方・考え方をういて追究できると考えている。

（2）生徒について

<個人情報保護のため省略>

(3) 指導について

① 「単元を貫く問い」と単元構造

本単元では、関東地方の特色を人口・都市・村落を中核視点として学習する。関東地方の人口問題として東京大都市圏の過密問題を取り上げるのではなく、動態的に東京大都市圏の人口の社会増に着目させ、その意味や影響を理解させたい。すなわち東京大都市圏の社会増がもたらす社会問題が、結果として、日本の人口減少に拍車をかけている。このことは、地方の衰退を招くだけでなく、東京大都市圏自体に急速な高齢化などの課題をもたらす。東京大都市圏の人口の社会増が関東地方全体や日本全体の持続可能性を低くすることにつながるという認識から「単元を貫く問い」を「関東地方で、『持続可能な社会』を実現させる上での課題は何か。」と設定した。

この問いにせまるために、3段階で単元を構想した。第1段階は、関東地方を概観し、自然の特徴の理解から人口の集中との関係に着目させたい。九州地方で学習した自然環境の理解を基にした見方・考え方を活用したい。第2段階は、多くの人口を支える産業と交通について人口と産業の関連について気づく段階である。中部地方で学習した地域間のつながり（交通網の発達）で獲得した見方・考え方をういて都市圏の拡大と産業の発達の関係、特に人口の社会増、一極集中の背景を交通網の発達と関連づけて理解させたい。第3段階は、拡大を続ける東京大都市圏の課題を考える段階である。過密地域での課題についてKJ法を用いて理解を共有したうえで、出てきた課題をいくつかに分類する。それらの課題を班で分担して調べ（エキスパート学習）、ジグソー学習を行う。生徒の実態から他者とのかかわりによって知識の質を高めていきたいと考える。

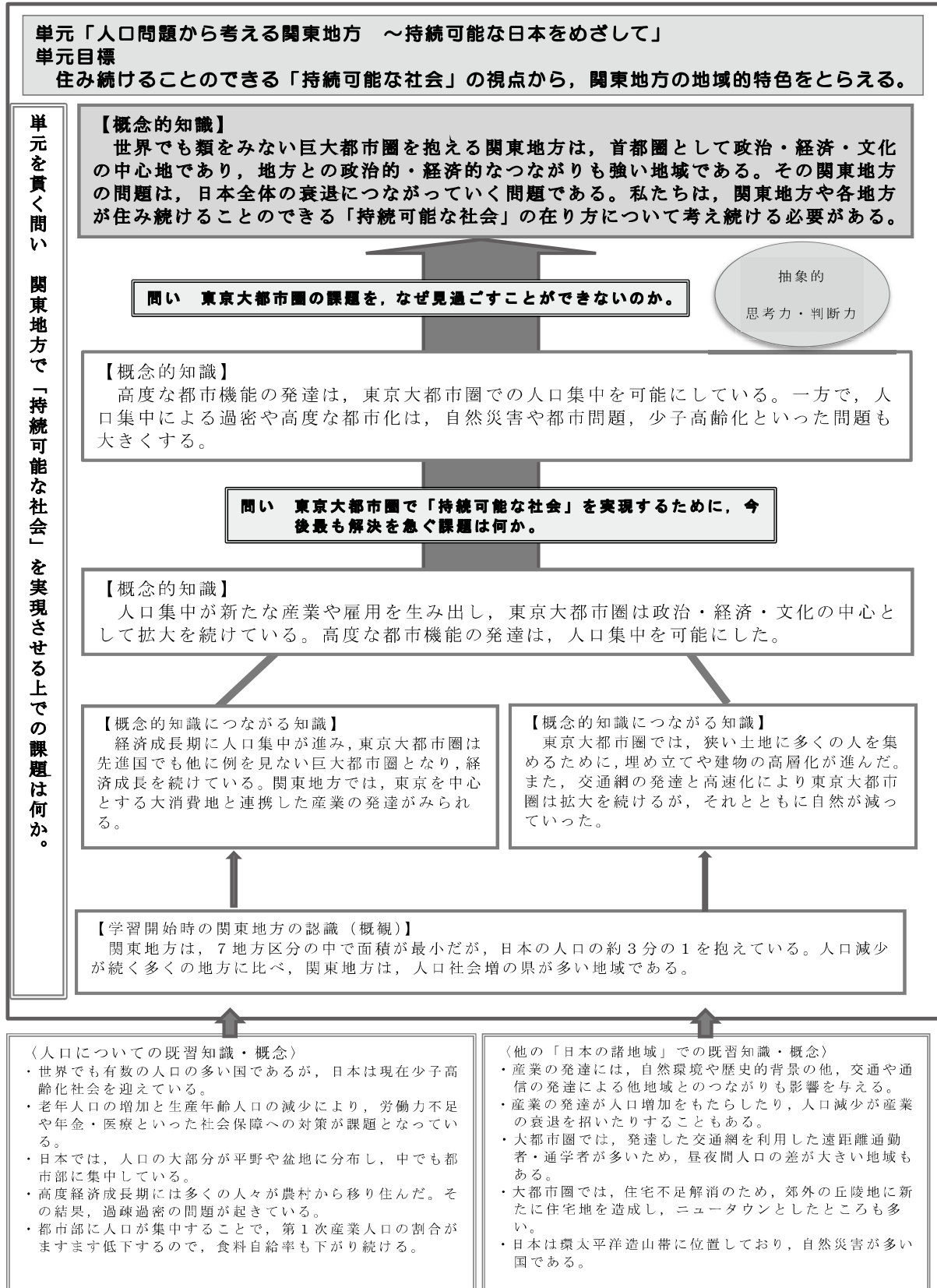
本時はこれらの課題について、解決を急ぐ優先順位をつける学習活動を行う。順位制について問うことがねらいではなく、生徒がこれまでの学習の知識を用いて、何を大切にしていけるのか、何が問題なのかという認識をしっかりと持ち、根拠を明示することによって東京大都市圏の人口問題の本質に迫りたい。東京大都市圏の課題を考える意味を追究することで、関東地方、わが国全体の課題とつながっているという認識を持たせるとともに、身近な地域の学習で行う島根県の人口問題の見方・考え方へとつなげていきたい。

② 学習活動の工夫

○思考力・判断力の育成には、生徒が自分の考えを説明したり、他者の考えと自分の考えとの異同を理解した上で、自分の考えを修正したりしながら、自分の知識を再構築していく協働的な学びが有効である。したがって、意図的に協働的な学びを、年間を通してまた単元で計画的に配置し、思考の深まりや広がりを目指していきたい。本時においても、東京大都市圏の最優先課題について協働的な学びを通して、より多面的多角的な視点から東京大都市圏の課題の本質と意味について理解を深めたいと考える。また、自分の考えをポートフォリオとして記録し変容を確認したり、既習事項を整理し掲示したりすることで、思考力・判断力を深める手立てとしたい。なお、既習事項については、キーワードとして示し、学習内容の整理および事象と事象の関連付けの助けとしたい。

○生徒のこれまでの学びやすすでに日常の中で持っている地域に対する既成のイメージをゆさぶるような事実を示すことで、課題追究の意欲を高めたい。例えば、本単元にかかわっては、生徒は東京大都市圏に対して持っている、いわゆる都会であるという側面だけでなく、空洞化、高齢化の現状を示す写真などを効果的に用いて、自らの既習概念の問い直しに継がるようにしたい。

4. 単元構造図



5. 単元を通して育成したい思考力・判断力

評価規準		評価資料
B評価	手立て	
関東地方の地域的特色について、既習知識や概念と関連付けて考察し、自分の言葉で理由をつけて説明している。	関連付けるのが難しい生徒には、キーワードの掲示を見るように促す。	発言 ワークシート

6. 単元の指導計画（全8時間） ■教師のはたらきかけ ●生徒によるはたらきかけ ◎評価活動

時	「問い」とおもな学習活動	思考力・判断力を育成する手立て
1	<p>問い：関東地方の特色は何か。</p> <p>○映像や写真を見て、東京の過密に気づく。</p> <p>○資料で、東京の人口密度や一極集中の高さを読み取る。 ・平成25年から26年にかけて、人口増加しているのは、全国で7都県しかなく、うち4都県は、東京、埼玉、神奈川、千葉である。 ・人口増の理由は自然増でなく社会増である。</p> <p>○東京に人口が集中する理由を予想する。 ・広い平野がある。 ・交通が便利である。 ・産業が発達している。</p> <p>○拡大を続ける東京大都市圏に着目し、その背景や理由を追究するといった課題意識をもつ。</p>	<p>■事前調査をもとに、関東地方に対する既存のイメージを映像等（駅の様子、タワーマンション、渋滞など）で紹介し、本時の問いにつなげる。</p> <p>■東京大都市圏が現在でも拡大し続けていること、一極集中度の高さなどを資料から示す。</p> <p>●◎個人で読み取った後に、ペアで確認することで、読み取りを確かなものにする。</p> <p>■過疎地域が多くある中国・四国地方と比較させ、人口集中を可能にする関東地方の特色について産業や交通の発達に着目させる。</p>
2	<p>問い：日本一人口が集中している関東地方では、どのような産業の特色があるのだろうか。</p> <p>○資料をもとに、関東地方ではどのような産業の特色があるのか追究する。 ・第三次産業の比率の高さや観光客の多さなどを読み取り、首都圏としての産業の特色をつかむ。 ・東京を中心とする大消費地と連携した産業の発達をとらえる。（近郊農業・北関東工業地域）</p>	<p>■島根県より東京都の方が野菜の生産額が高いことから生徒の既習概念をくずし、本時の問いにつなげる。</p> <p>■これまでの日本の諸地域で学習した知識・概念を活用できるように、教室に常に掲示する。</p> <p>■東京大都市圏と周辺地域の相互依存に気づかせる。</p>
3	<p>問い：東京大都市圏は、どのように拡大を続けてきたのか。</p> <p>○東京大都市圏の拡大について追究する。 ・狭い土地に多くの人を集めるため、埋め立てや建物の高層化が進んでいる。 ・交通網の発達と高速化により、東京大都市圏は拡大を続けている。 ・郊外にたくさんのニュータウンが建設され、都市圏の拡大とともに自然が減った。</p> <p>○東京大都市圏が拡大を続けることができる要因をまとめて、説明する。</p>	<p>■東京大都市圏の通勤可能範囲を島根県に置きかえて比較し、本時の問いにつなげる。</p> <p>◎「東京への人口集中を可能にすること」を生徒自身がワークシートにまとめながら学習を進める。</p> <p>■人口集中地域では人工物が増えることに気づかせる。</p> <p>●◎自分の考えを相互に説明し、自分が見つけていない視点や参考になった視点を評価し伝え合う。</p>

4	<p>問い：人口が増え続け、拡大を続ける東京大都市圏での生活にはどのような課題があるのか。(予想する)</p> <p>○K J法で、予想されることを出し合い、グルーピングする。個人 → グループ</p> <p>○グルーピングしたものに題をつける。</p> <p>○学級全体で共有しながら、複数のテーマから考えられるように学級全体で整理する。</p>	<p>■災害時における帰宅困難者の資料から、高度に発達した都市での生活のもつ弱点に気づかせ、本時の問いにつなげる。</p> <p>■今までの学習を振り返って考えることができるように、資料やキーフレーズを提示する。</p>
5 ・ 6	<p>問い：人口が増え続け、拡大を続ける東京大都市圏での生活にはどのような課題があるのか。 (調べる・まとめる)</p> <p>○それぞれのテーマについて、関東地方では実際にどのような課題がみられるのか、その規模や原因を、資料に基づいて調べる。</p> <p>○同じテーマで調べた者で集まり、意見交流を図る。 (エキスパート活動)</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渋滞や騒音 ・通勤ラッシュ ・ヒートアイランド ・災害時の帰宅困難者 ・都心における過疎問題 ・住民一斉の高齢化を迎える郊外のニュータウン <p>○違うテーマで調べた者で集まり、それぞれが調べた課題について資料をもとに説明する。(ジグソー学習)</p> <p>○東京大都市圏で最も解決を急ぐ課題は何か、自分の意見とその理由を書く。(1回目の考え)</p>	<p>■それぞれの課題が、東京大都市圏ではどのように現れるのか、他の地域と比較して、人口集中と関連付けて考察させる。</p> <p>●自分と同じテーマを調べた者で集まり、人の考えを広げたり深めたりする。</p> <p>◎思考ツールを使ったワークシートを用いることで、調べたことと、自分の考えを整理しまとめる。</p> <p>●自分とは違うテーマを調べた友だちの意見を聞き、新しい視点をもつ。</p>
7 本 時	<p>問い：東京大都市圏で、「持続可能な社会」を実現するために、今後最も解決を急ぐ課題は何か。</p> <p>○今後、最も解決を急ぐ課題は何か追究する。</p> <p>○人口や都市に関する近未来の資料をもとに自分の考えを再構成する。</p> <p>○東京大都市圏で、今後最も解決を急ぐ課題は何か、自分の考えとその理由を書く。 個人→ グループ (2回目の考え)</p> <p>○全体交流</p> <p>○東京大都市圏の課題を大きくしているものは何か考える。</p>	<p>■東京都の急速な高齢化や一極集中が止まらない資料をもとに、今後の予想をさせることで思考を活性化させる。</p> <p>●グループでの話し合いでは、意見の集約は行わない。</p> <p>■全体での意見交流は、理由をフリップカードに書いて提示することでの思考の可視化をはかっておこなう。</p> <p>■東京大都市圏の拡大を可能にしているものが、課題を大きくしていることに気づかせる。</p>
8	<p>問い：東京大都市圏の課題を、なぜ見過ごすことができないのか。</p> <p>・関東地方だけでなく、全国の多くの産業が東京大都市圏とつながっている。人口集中地域の衰退は日本の人口減少や日本の産業の衰退につながる。</p> <p>・東京大都市圏や地方が住み続けることのできる持続可能な社会をつくっていく必要がある。</p> <p>○関東地方全体に広げて考え、人口の視点から見た関東地方の特色をまとめる。</p> <p>○単元を通したふりかえりと、島根県が抱える人口問題とを比較して考え、身近な地域調査に向けた問いをもたせる。</p>	<p>■この問いで、東京大都市圏の課題を考える意義を問うことで、日本における関東地方の特色をとらえさせる。</p> <p>■中国・四国地方、中でも島根の抱える問題と比較させ、身近な地域の調査に向けて新たな問いをもたせる。</p>

7. 本時の学習

(1) ねらい

東京大都市圏で、「持続可能な社会」を実現するために、解決を急ぐ課題は何か追究することで、関東地方の人口問題を捉え直すことができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	1. 前時のふりかえりをする。	○前時に調べた課題を提示する。
展開	<p>問い：東京大都市圏で、「持続可能な社会」を実現するために、今後最も解決を急ぐ課題は何か。</p>	
	<p>2. 人口や都市に関する新たな資料に出会う。</p> <p>3. 東京大都市圏で、今後最も解決を急ぐ課題は何か追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で資料をもとに自分の考えを再構成する。 ・グループで意見交換をする。 ・自分の考えとその理由を書く。(2回目の考え) <p>4. 全体交流 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通網が発達したり、建物が高層化したりしている都市ほど被害が大きくなるし、それらが自然災害を引き起こすこともある。 ・人口集中地域の一斉の高齢化が起こると、労働力が少なくなり、産業が衰える。 ・一極集中が進むと、渋滞や住宅不足がますますひどくなる。 <p>5. 東京大都市圏の課題を大きくしているものは何か考える。</p>	<p>■東京都の急速な高齢化や一極集中が止まらない資料などを提示し、今後の予想をさせることで、思考を活性化させる。</p> <p>●グループでの話し合いでは、意見の集約は行わない。</p> <p>●理由をフリップカードに書いて提示することで、思考の可視化を図る。</p> <p>○問題の優劣をつけることをねらいとせず、課題について多面的・多角的に考えさせる。</p> <p>■東京大都市圏の拡大を可能にしているものが、課題を大きくしていることに気づかせる。</p>
まとめ	6. 東京大都市圏の課題を、なぜ見過ごすことができないのか考え、次時への課題意識を持つ。	

(3) 期待される生徒の姿

- ・東京大都市圏の課題について、今まで習得した知識・概念を活用しながら、その課題の解決が急がれる理由を説明している。
- ・東京大都市圏の課題を大きくしているものは何かを考えることで、関東地方の人口問題を捉え直している。